

「ヨーロッパ文化研究」第1集～第20集総目次

第1集 (1981年3月)

- ゾラとく田舎地主議会 *Assemblée rurale* > 尾崎 和郎
- 塩税と密売
——塩のフランス史研究試論—— 千葉 治男
- 夜を通る暗い道
——ラインホルト・シュナイダーの闘い—— 横塚 祥隆

第2集 (1982年3月)

- HABENT SUA FATA EXEMPLA 亀井 孝
- ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』試論 (一) 登張 正實
- バルザック『谷間の百合』覚書 西 節夫

第3集 (1983年3月)

- ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』試論 (二) 登張 正實
- ニーチェと十九世紀後半のドイツの状況 I 舟越 清

第4集 (1984年3月)

- ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』試論 (三) 登張 正實
- バルザック『呪われた子』覚書 (一) 西 節夫

ニーチェと十九世紀後半のドイツの状況Ⅱ

舟越 清

第5集(1985年3月)

ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』試論(四)

登張 正實

バルザック『呪われた子』覚書(二)

——愛のテーマをめぐる——

西 節夫

科学とヨーロッパのキリスト教的世界像(一)

——十九世紀末のドイツ文学とニーチェの宗教観・序——

舟越 清

第6集(1987年3月) 登張正實教授退職記念号

登張正實教授近影

献辞

山田 壽

ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフターディンゲン』

(『青い花』) 試論(一)

登張 正實

レーナ・クリストのこと(1)

濱川 祥枝

「国内亡命文学」試論

横塚 祥隆

『オイディプス王』ノート

逸身喜一郎

登張正實教授略歴および主要業績目録

第7集(1988年3月)

ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフターディンゲン』

(『青い花』) 試論(二)

登張 正實

科学とヨーロッパのキリスト教的世界像 (二)

——十六・十七世紀の学術研究と新しいコスモスの創造——

	舟越 清
レーナ・クリストのこと (II) (承前)	濱川 祥枝
亭主像の諸相——スガナレル像の変貌——	一之瀬正興
エウリピデスの語法	逸身喜一郎

第8集 (1989年3月)

レーナ・クリストのこと (III) (承前)	濱川 祥枝
ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフトーディンゲン』	
(『青い花』) 試論 (三)	登張 正實

第9集 (1990年3月)

レーナ・クリストのこと (IV) (承前)	濱川 祥枝
ガレルヌの彷徨を追って	
——ラ・ロシュジャックラン侯爵夫人『回想録』抄——	西 節夫
フローベール作『ボヴァリー夫人』	
——農事共進会における交互進行のことば——	磯部 万里

第10集 (1991年3月)

山田 壽教授写真	
『葉陰の剣』に見る二つの愛	山田 壽
フランス体系百科全書とパンクーク	千葉 治男
中・後期エウリーピデースの趣向	逸身喜一郎

ワイトゲンシュタインのパラドックス

——『探究』の第二〇一節をめぐる—— 黒崎 宏

美女と野獣

——アニェス・ニンフェットとアルノルフ・グロテスク—— 一之瀬正興

「青ひげの城」

——《禁室》の象徴体系をめぐる—— 西浦 禎子

第11集（1992年3月）

レーナ・クリストのこと（V）（承前） 濱川 祥枝

音楽とテキスト

——エリック・サティの音楽論をめぐる一考察—— 有田 英也

ワイトゲンシュタインの『哲学的探究』を読む

——私的言語に係わる部分—— 黒崎 宏

第12集（1993年3月）

レーナ・クリストのこと（VI）（承前） 濱川 祥枝

フランス語の時制・アスペクト・動作態 町田 健

ワイトゲンシュタインの『哲学的探究』を読む

——「規則」に係わる部分—— 黒崎 宏

第13集（1994年3月）濱川祥枝教授退職記念号

濱川祥枝教授近影

献辞 成瀬 治

レーナ・クリストのこと（VII）（承前） 濱川 祥枝

知識人のフランス革命 ——ジャック・プーシェの場合——

- (一) 革命思想の形成 千葉 治男
 アルブレヒト・ハウスホーファ
 『モアビート・ソネット集』管見 横塚 祥隆
 女神と人間のあいだに生まれた子供たち 逸身喜一郎
 後期ワイトゲンシュタインに何を学ぶか
 ——事象から文法へ—— 黒崎 宏
 『ショレの赤いハンカチ』由来考(1) 西 節夫
 「女房学校論争」をめぐる(その1)
 ——『女房学校批判』について—— 一之瀬正興
 ワイマールへの旅 ——一九四一年一月第一回ヨーロッパ
 作家会議についての覚え書き 有田 英也

第14集(1995年3月)

知識人のフランス革命 ——ジャック・プーシェの場合——

- (二) 革命のなかへ(完了) 千葉 治男
 リュシストラテの正体
 ——πεκτουμενονの意味をめぐる 戸部 順一
 「女房学校論争」をめぐる(その2)
 ——『ゼラント、または女房学校真の批判』について——
 一之瀬正興

第15集 (1996年3月)

ジャック・プーシェの業績

——忘れられた碩学の遺産(一)——

千葉 治男

フランス語の冠詞の意味

町田 健

『ショレの赤いハンカチ』由来考(II)

西 節夫

付 Th. Botrel et d'Anjou: Le mouchoir rouge,

épisode de la Chouannerie 1793 (Drame en 1 acte)

第16集 (1997年3月)

ジャック・プーシェの業績

——忘れられた碩学の遺産(二)——

千葉 治男

ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフターディンゲン』

(『青い花』) 試論(五)

登張 正實

アリストパネスの悲劇批判(その2)

——『女だけの祭』における女衣装

戸部 順一

第17集 (1998年3月) 千葉治男教授/成瀬 治教授退職記念号

千葉治男教授近影

成瀬 治教授近影

献辞

藤本 淳雄

ジャック・プーシェの業績

——忘れられた碩学の遺産(三)——

千葉 治男

ハインリヒ・マンと国内亡命文学

横塚 祥隆

アリストパネスにおける“TERAS”の意味

戸部 順一

Le valets dans la comédie classique française et

Tarôkaja dans le Kyôgen — Une comparaison théâtre

franco-japonaise

Ichinose Masaoki

第18集 (1999年3月) 黒崎 宏教授／藤本淳雄教授退職記念号

黒崎 宏教授近影

藤本淳雄教授近影

献辞

新井 恵雄

ル・フォール『コンソラータ』をめぐって

横塚 祥隆

Mariä Himmelfahrt im Sonnenschein, gibt es reichlich guten Wein

——『シュタイアーマルクの農民暦』にみる

オーストリア人の季節感について

富山 典彦

ノヴァーリス『ハインリヒ・フォン・オフターディンゲン』

(『青い花』) 試論 (六)

登張 正實

デュシャンとその蝶番

北山 研二

個体と全体

——『ホーフマンスタール』世界小劇場《の問題

小松崎 直

イスラエリットの歴史 (1806~1905) (下)

有田 英也

ラングとララング

——ソシュールとラカンにおける言語概念と記号の恣意性

末永 朱胤

第19集 (2000年3月)

„Blitzdichter“ Karl Farkas の誕生

——ウィーンのカバレッティスト列伝 (1)

富山 典彦

言いえないドレフュス事件

——『失われた時を求めて』への社会批評的アプローチ 有田 英也

女性文化 (Weibliche Kultur)

Georg Simmel

濱川 祥枝訳

第20集 (2001年3月)

後期ドリュ・ラ・ロシエル像の確定に向けて

有田 英也

レーモン・ルーセルの演劇性

北山 研二